



To 松本エリアのイクママ&イクパパ From 松本市立病院

市立病院通信

医療スタッフ
リレーコラム

【今月の担当】津野 隆久

松本市立病院 副院長 小児科医
松本市出身「近くの畑を借りて菜園ライフを楽しんでいます。春に苗を植えて手塩にかけて育てた、トマト、きゅうり、なす、オクラなどの夏野菜が今収穫の時期を迎えています。大地の恵みをいただく喜びを噛み締めつつ、毎日次から次と実る野菜を無駄にしないように、体が赤緑色になるまで一生懸命食べて、この暑い夏を乗り切ろうと考えています」



第10回 夏に子どもがかかりやすい感染症

■松本市立病院の産科・小児科医師、助産師、栄養士などの医療スタッフが、それぞれ専門の立場で執筆を担当。地域のママ・パパ(プレママ・プレパパ)に向けて、お知らせしたい医療情報や旬の話題などを月替わりでお届けします。

夏には発熱、発疹、下痢などを主な症状とするウイルス性の夏かぜや、特徴的な発疹を呈するウイルス性あるいは細菌性の発疹症が流行します。今回は、夏に子どもがかかりやすい感染症の特徴や対処法についてお話しをしたいと思います。

■ 手足口病

コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる感染症です。潜伏期間は3～5日で、**手や足、口の周りや口の中に水ぶくれのような発疹(水疱疹)**がみられます。手足の発疹にかゆみはほとんどなく、数日から1週間ほどで痕を残さずに消えます。口の中にできた発疹はしばしば痛みを伴い、食欲低下がみられます。あまり高い熱が出ないため解熱剤などを用いずに経過をみることができますが、熱が2日以上続いたり、元気がない、頭痛・嘔吐などがある時は、まれに髄膜炎や脳炎、心筋炎を合併していることがあるため注意が必要です。

■ ヘルパンギーナ

コクサッキーウイルスによる感染症です。潜伏期間は2～4日で、**38～40℃の発熱が1～3日続き、咽頭痛、食欲低下、嘔吐などの症状を伴うことがあります。**のどに水疱や潰瘍などの変化がみられ、のどの痛みを伴うため食物が飲み込みにくくなり、よだれを垂らしたり、食欲が落ちたりします。突然の高熱で発症することから、熱性けいれんを起こすことがあります。

■ 咽頭結膜熱(プール熱)

咽頭結膜熱は、**発熱、咽頭炎、結膜炎を主な症状**とし、過去に消毒が不十分なプールの水によって感染が広がったことがあり、通称プール熱と呼ばれるようになりました。原因はアデノウイルスによる感染症です。潜伏期間は5～7日間で、**突然のどや全身が痛くなり、38℃～40℃の熱が4～5日間続きます。**乳幼児では嘔吐や下痢などの胃腸症状がみられることがあります。結膜炎による目の赤みは比較的軽いことが多く、片側から始まり2～3日後に反対側にも広がります。

以上の3つが代表的な夏かぜですが、**原因となるウイルスに対する特別な治療薬はなく、症状をできるだけ和らげる対症療法が治療の中心**になります。口内の痛みが強く食欲が低下している時は、**口当たりのよい食べ物や飲み物**を与えてください。のどにしみるような塩辛いものは受け付けられないことが多いと思いますが、食欲が低下している際の塩分補給は重要であり、**味を薄くして何回かに分けて与える**ようにしてください。ウイルスは唾液と一緒に周囲に飛び飛沫感染や便中に排出されて人の手を介する接触感染によって広がりますので、**タオルや食器の共有は避け、うがいや排便後の手洗いをしっかり**行ってください。

■ 伝染性紅斑(りんご病)

ヒトパルボウイルスB-19による感染症で、例年6月～7月ごろに多くみられます。**頬に紅斑が出現し、りんごの様なほっぺになる**ことから、通称りんご病と呼ばれます。紅斑は7日～10日くらいで消退しますが、日光や運動などにより再び現れることがあります。潜伏期間は7～18日で、紅斑出現時にはウイルスに対する抗体ができているため感染力はなくなっています。先天性の溶血性貧血の患者

に感染すると重症貧血を起こしたり、妊娠の比較的早い時期(妊娠20週以下)の胎児に感染すると胎児水腫を発症することがあり注意が必要です。

■ 伝染性軟属腫(みずいぼ)

伝染性軟属腫ウイルスによる感染症です。**ウイルスが皮膚の傷から侵入し、感染した皮膚細胞が膨張して小さいいぼができます。**乾燥肌やアトピー性皮膚炎などの皮膚の弱い子どもにうつりやすく拡がりやすいと言われています。通常数ヶ月～数年で自然に消えるため、治療は行わず経過観察となることがありますが、待っている間にさらに増える可能性があります。**最も効果的な治療はピンセットでつまんでみずいぼの中身を取り出す方法ですが、痛みを伴うため子どもさんの精神的負担が問題**となります。治療に関しては医療側の意見も分かれるところであり、迷われる時はかかりつけ医で相談してください(小児科は自然治癒派、皮膚科は摘出派が多いように思います)。

この時期プールに入ってよいかよくご質問いただきますが、**プールのお水でうつることはないのだから入ることは問題ありません。**ただし、肌直接接触する**タオル、ビート板、浮き輪などを介してうつることがあります**ので、それらを共有することはなるべく避けてください。

■ 伝染性膿痂疹(とびひ)

主に黄色ブドウ球菌による皮膚感染症です。**虫刺されや湿疹のひっかき傷に菌が感染して薄い皮の水ぶくれができ、その後すぐに破れて皮むけ(びらん)ができます。**さらにその周りに発疹が拡がり、**そこを触れた手により全身の様々な場所に発疹が拡がります。**抗生物質の内服薬や軟膏で治療を行います。皮むけのところに絆創膏などを貼ると、中で菌が増殖したりテープをはがす時の小さな傷から菌が感染し、さらに拡がることがあるので注意してください。**プールのお水でうつることはありませんが、感染力が強く直接肌が触れあうことで拡がりやすいことから、発疹が全てかさぶたになるまでプールは避けてください。**

みずいぼやとびひは、もともと乾燥肌やアトピー性皮膚炎などの皮膚の抵抗力が弱い子にうつりやすいと言われています。**一度うつると拡がりやすく治りにくい傾向**がありますので、**皮膚炎を悪化させないような日頃のスキンケアが予防対策として重要**と思われます。また発疹やその周辺を手で搔くことで皮膚に細かい傷ができ、感染が拡がることが多いため、**手の爪はよく切っておいていただきたい**と思います。



松本市立病院
Matsumoto City Hospital

〒390-1401 松本市波田 4417-180
TEL (0263) 92-3027 (代表)
http://www.hp-hata.com/



- 受付時間 8:15～11:30
- 産婦人科は予約制です。詳細は平日の15:30～17:00にお電話でお願いいたします。
- 小児科では予防接種の受け付けをしています。ご相談ください。

このコーナーへのご意見、ご質問がありましたら、お寄せください。また、「こんなテーマでレクチャーしてほしい」といったご要望もお待ちしています。